一般の部

竪阿彌　放　心　選

特選

万緑や奥の暗がり水の音　　湯沢市　加瀬谷敏子

〔選評〕　万緑は極まると暗い感じがします。その暗がりに水の音がします。寂かでひんやりとしています。万緑の本質を突きつめたような一句だと思います。

秀逸

渡し場の名残の杭や赤とんぼ　　由利本荘市　佐々木　成

〔選評〕　まるで演歌の一場面のような、なつかしい感じのする句です。もう使われない渡し場でしょうか。その杭に赤とんぼが止まっています。少し古い型の句にも思えますが、とても安定感のあるだれもが納得できる句です。

牛飼いが来て十薬のよく匂う　　秋田市　小林万年青

〔選評〕　きっと作者の近くには牧場があるのでしょう。「牛飼い」と表現することで、なつかしさが出て、しかも彼がやって来て、十薬が匂うというのは、まるで予定調和の感じがします。

入選

ひんやりの空気が旨い夕立来る　　秋田市　種村聖巴子

〔選評〕　夕立の前、ふっと涼気が来ます。全くうまい句です。

拉致されて還らざる人飛花落花　　大仙市　櫻田北投石

〔選評〕　依然として解決しない拉致。飛花落花も真に悲しみを帯びてきます。

兄の打つ投網の中の雑魚光る　　由利本荘市　佐々木　成

高清水の岡は謎秘め秋の声　　由利本荘市　佐々木　豊

梅雨晴間人待ち顔の骨董屋　　秋田市　武藤　素魚

梅雨寒や独り相撲の詰将棋　　湯沢市　小形　柳明

佐藤景心選

特選

雲の音聞こえて今日は露月の忌

秋田市　**布田日斗美**

〔選評〕　雲の音を聞いたのは作者の心耳だろう。高尾山に露月の句碑「秋立つか雲の音聞け山の上」が立つ。この露月の句を踏まえての句。露月の記憶を辿るにふさわしい忌日句。

秀逸

高清水の岡は謎秘め秋の声

由利本荘市　**佐々木　豊**

〔選評〕　高清水の岡には古代の秋田城跡があり、今も発掘が続く。正に、謎を秘めた岡であり、秋の気を感じさせる「秋の声」との取合せが巧み。

早苗饗の末席勤め帰りの子

横手市　**片倉　弓**

〔選評〕　田植が終わった祝の席。田植を手伝った人で盛り上がっている中に遅れて入った勤め帰りの子。主自慢の頼もしい跡取りに違いない。

入選

渡し場の名残の杭や赤とんぼ

由利本荘市　**佐々木　成**

〔選評〕　寂寞とした風情を醸し出す情景。昔、雄物川は水運が発達しており、地域性を感じさせる句。

客人（まろうど）に遠山見えて夏座敷

秋田市　**神成　石男**

〔選評〕　襖や障子を取り払った夏座敷。遠山を見通せる席は客を持て成す上座。客の喜びが目に浮かぶ。

六月や喪服の人に黙礼す

秋田市　**宇佐見レイ子**

〔選評〕　湿潤でうっとうしい六月。喪服の人に黙礼したという事実との取合せが「六月」という季語とよく調和。

高原を駆ける仔牛や遠郭公

秋田市　**工藤　和洋**

〔選評〕　仔牛が放たれた高原に鳴く郭公。万物が躍動する夏の季節感横溢の句。

夏雲や太平山を友として

五城目町　**八柳　知徳**

〔選評〕　太平山の上に湧き立つ夏雲。綿雲、入道雲と変化するのは、太平山と語り、遊んでいるのかもしれない。

俳　句　部　門

佐々木　公　平　選

特選

露月居に子規の遺影や昼ちちろ

秋田市　岩谷　塵外

〔選評〕　露月山盧は今も生前のまま保存されてをり、敬愛する子規の写真が飾られている。一般に夜の方が、虫達の世界にふさわしいが、昼でも静かな場所だと鳴きだす虫も居たりする。

秀逸

客人（まろうど）に遠山見えて夏座敷

秋田市　神成　石男

〔選評〕　座敷は何も置かず、広々と使ってみたいと思いながら雑多なものを置いてしまう。借景が「遠山」とは羨ましい。

俎に山の色ありみず叩き

八郎潟町　小玉　光子

〔選評〕　若い茎が食用となり、叩いてトロロ状にし、山椒などすりおろしたものをあわせて食べる。「みず叩き」は秋田の味である。

入選

灯を消して子らうつ伏せに蛍籠

秋田市　大橋　風太

〔選評〕　「蛍」を詠んだ句は多く目にするが、「蛍籠」はあまり無い。幼い児が蛍を捕って来て、思わずほほえみたくなる光景。

早苗饗に婆が十八番（おはこ）のこっから舞い

秋田市　加藤　隆二

〔選評〕　田植が終ったあとのお祝い。農民の素朴な素人芸も楽しみの一つである。

牛飼いが来て十薬のよく匂う

秋田市　小林万年青

〔選評〕　一般的には「どくだみ」と呼ばれるが、清楚な白い花を咲かせるが、はびこると匂いがきつい。

女米木衆露月好みのとろろ汁

秋田市　岡部いさむ

〔選評〕　濃い目のミソ汁に摺りおろした「長芋」を少量ずつ量をふやす。美味しく、だれでも何杯でも食べられます。

高原を駆ける仔牛や遠郭公

秋田市　工藤　和洋

〔選評〕　「仔牛」は基本的には可愛いもの。高原を吹き抜ける風、「遠郭公」との取り合わせに好感。

大会実行委員会　選

特別賞

麦の秋学んで忘れまた学ぶ　三種町　三浦　静佳

ちちははの星を探せり夜の秋　大仙市　鈴木アヤ子

器まで変えてごちそう夏料理　井川町　齋藤　幸子

小・中・高校生の部

◎小学生の部　佐　藤　景　心　選

特選

あったあったヤゴのぬけがら池の草

由利本荘市　西目小三年　佐々木　楽

〔講評〕　ヤゴを発見した喜びの表現「あったあった」がすばらしい。句を読む人をその場にいるような感覚にさせてくれる。

秀逸

田植えして足がむにゅむにゅ気持ちいい

秋田市　雄和小五年　齊藤　優太

田植をしたからこそ分かる「むにゅむにゅ」感。俳句に体験は大事なこと。

入選

つばめとぶサッカーせんしゅとなるゆめへ

八峰町　峰浜小二年　金谷　歩

だんごむし土をふとんにはるをまつ

八峰町　峰浜小二年　さとうあいし

〔講評〕　はるがまちどおしいだんごむし。だんごむしにそそぐやさしいまなざし。

かきごおりおくちのなかは北きょくだ

八峰町　峰浜小二年　ふくし百合

あおぞらにピンクのさくらほしみたい

由利本荘市　尾崎小三年　真坂　悠斗

メジロがねつばさをひらいて羽ばたくよ

由利本荘市　尾崎小三年　伊藤ひかり

春の池桜の花がうかぶ夜

由利本荘市　尾崎小三年　藤原　美桜

〔講評〕　夜桜が池に映っているようす。その表現がすばらしい。

夏の朝楽しいことがはじまるぞ

由利本荘市　西目小三年　岡田　晴琉

〔講評〕　楽しいこととは何だろう。夏は活動的な季節。元気なようすが目に浮かぶ。

鳥海山雨の日きりにかくれんぼ

由利本荘市　西目小三年　岡田　偉月

夏蝶を発たせてしまふ靴の音

秋田市　雄和小四年　藤原　永央

散る桜もうすぐ春も終わりかな

由利本荘市　西目小四年　佐々木柊成

俳　句　部　門

夏休みサッカー試合がんばるぞ

由利本荘市　西目小四年　阿部　秀虎

ねがいごと下げて七夕竹しなう

八峰町　峰浜小四年　赤川　怜

〔講評〕　七夕竹がしなうほどの願いごと。どんな願いか気になるところ。

春風に本ここちよく読みすすむ

八峰町　峰浜小四年　小林　武

ころもがえ心機一転がんばるぞ

八峰町　峰浜小四年　柴田　獅也

ぎんがの夜みやざわけんじゆめの中

八峰町　峰浜小四年　太田優希奈

田んぼにはおたまじゃくしの国がある

八峰町　峰浜小四年　川尻　愛桜

〔講評〕　たくさんのおたまじゃくしを「国」とみたのが発見。すばらしい観察力。

妹の元気な返事一年生

五城目町　五城目小五年　荒川　芽吹

〔講評〕　一年生となって心配だった妹の元気な返事にひと安心。やさしい心の表れ。

夏の日陰太陽が勝ち風が敗け

五城目町　五城目小五年　佐藤　匠哉

運動会はきけをおもわす徒競走

秋田市　雄和小五年　鈴木　碧人

ありたちがぐるぐる回っておにごっこ

秋田市　日新小五年　髙堰　菜緒

夏草や風にふかれてまいおどる

秋田市　日新小五年　藤田　姫奈

風かおるぼくも走って風になる

秋田市　日新小五年　塚田　遼

〔講評〕　中七下五の表現がすばらしい。初夏の風とともに走るようすが目に浮かぶ。

ブイサイン一年生を出むかえる

八峰町　峰浜小五年　内山　泰希

田植えしてよくやったなとにじが立つ

八峰町　峰浜小五年　南部　泰輝

あせ光るスパイクきまるネットぎわ

由利本荘市　西目小五年　齋藤　美愛

〔講評〕　スパイクが決まったネットぎわ。その瞬間の喜びを汗をとおして表現。

俳　句　部　門

穀雨きて種が芽を出し笑顔出る

大館市　川口小六年　**佐藤　広希**

風を切りひらりとはためくあまつばめ

由利本荘市　尾崎小六年　**伊藤　志帆**

炎天下兄と弟もうけんか

秋田市　雄和小六年　**阿部　壮真**

〔講評〕　炎天下のけんかははげしい感じ。時にあってもいいが、仲よくしたいもの。

丸坊主に刈って五月を迎えけり

八峰町　峰浜小六年　**工藤　叶登**

〔講評〕　「丸坊主」で気分も一新。明るい５月を迎え思うことがあるのだろう。

流れ星のように光ってホームラン

八峰町　峰浜小六年　**長門　朝陽**

◎中学生の部　佐々木　公　平　選

特　選

雲の峰熱き思いを一球に

秋田市　雄和中三年　**伊藤　心絆**

〔講評〕　野球部でしょうか。一球一球に思いを込め、部活に励む。青空に湧き立つ、大きな雲から、生命を感じられる好句。

秀　逸

潜む影小さな忍者雨蛙

秋田市　山王中一年　**藤原　由奈**

〔講評〕　「雨蛙」を忍者と見立てた優しいまなざし、蛙は変幻自在です。

氷の音静かに響くソーダ水

秋田市　山王中二年　**後藤　優空**

〔講評〕　清涼飲料水のソーダ水と氷がぶつかるかすかな音、清涼感があります。

入　選

祖母の家ねっころがれば夏休み

秋田市　山王中一年　**柴田　伊織**

〔講評〕　久し振りの祖母の家、座敷に大の字にねっころがり気持ちよいですね。

俳　句　部　門

炎天下汗にまみれてワントライ

秋田市　山王中一年　**大藪琥太朗**

〔講評〕　ラグビーの試合、暑い中喜びをストレートに詠んでいます。

テント泊話している声星月夜

秋田市　山王中一年　**内藤　優衣**

〔講評〕　「星空」をテント泊で見る。大自然に感謝。

春の朝すずめの恋が始まった

秋田市　秋田東中一年　**三浦　奏美**

〔講評〕　賑やかな「すずめ」の様子が目に見えます。

天の川闇に包まれた鳥海山

秋田市　山王中二年　**渡邉　大智**

〔講評〕　鳥海山と天の川とのコントラスト、幻想的です。

夏の空どんどん湧き出る白い雲

秋田市　山王中二年　**近藤さくら**

〔講評〕　四季の中でも、夏空は原初的な生命力を感じさせます。

夏祭り気になるあの子と二人きり

秋田市　山王中二年　**堀川　空来**

〔講評〕　楽しい夏の一時、青春の甘い思い出です。

夏の空声響くのは球児たち

秋田市　山王中二年　**髙橋　将真**

〔講評〕　控え選手のしゃがれた声がグランドに響きます。

帰り道空をあおげば天の川

秋田市　山王中二年　**山正　和尚**

〔講評〕　暗闇の帰り道、淡く浮かぶ銀河、素敵です。

空に舞う流星群みて願いごと

秋田市　土崎中三年　**工藤　佐子**

〔講評〕　願いごとが、かなえられると良いですね。

夏の空夜空に集う提灯の列

秋田市　土崎中三年　**保坂　聖來**

〔講評〕　灯りを入れた竿燈が、夜空に浮かぶ眺めは壮観です。

帰り道夏を感じる草のにおい

秋田市　土崎中三年　**髙島　利音**

〔講評〕　日盛りの帰り道、むせかえるような、夏草の匂いが強烈です。

きらきらの最後の夏を継ぐバトン

能代市　能代南中三年　**渡辺　杏**

〔講評〕　クラブ活動、バトンワークも真剣です。

炎天下一人で放つシューティング

東成瀬村　東成瀬中三年　**平良　大和**

〔講評〕　炎天の中、黙々とシュートの練習。集中している様子が伝ってきます。

ラムネビンビー玉の中の小宇宙

東成瀬村　東成瀬中三年　**鈴木　菜月**

〔講評〕　ラムネビンの中の「宇宙」。豊かな発想です。

◎高校生の部　竪阿彌　放　心　選

特選

友と会い弾丸電車でさあ海へ

秋田市　秋田クラーク高等学院三年　**太田　莉梨**

〔講評〕　友人と待ち合わせて、さあ海へ。実際に弾丸電車に乗るのでしょうか。それとも比喩としての「弾丸」でしょうか。海へ出かける若人の意気込みが伝わってきます。

秀逸

小さな手わっとひろがるシャボン玉

大館市　大館鳳鳴高一年　**菊池万里奈**

〔講評〕　高校一年生の作者から見て、小さい子ども。小さな手がシャボン玉めがけてひろがります。実に楽しくほほえましい光景です。

友笑う入道雲を背景に

潟上市　秋田西高二年　**小幡ののは**

〔講評〕　入道雲がむくむくと湧いています。入道雲を背に、友が笑っています。夏らしい、そして青春まっ只中の一句です。

入選

夏の海となりの姉はだまっている

仙北市　大曲農高太田分校一年　**大山　瑞稀**

〔講評〕　不思議な句です。この海は晩夏でしょうか。となりにいるお姉さんは無口です。お姉さんも青春の愁いを抱えているのでしょうか。

クラTの背ネーム踊る文化祭

潟上市　秋田西高二年　**久米理紗子**

新緑や慣れない手つきの券売機

仙北市　大曲農高太田分校二年　**佐々木もみじ**

春日和いつも私は曇り空

仙北市　大曲農高太田分校二年　**茂木珈芽璃**

〔講評〕　春らしい穏やかな日和なのに、曇り空のように私の心は晴れないのです。倦怠感です。

炎天やさよならヒット振り仰ぐ

仙北市　大曲農高太田分校三年　**戸澤　蒼空**

ハンバーガー頬張りむせて蟋蟀（きりぎりす）

秋田クラーク高等学院三年　**佐藤　優成**

山に入り少し歩いて滝あらわる

秋田クラーク高等学院三年　**山中慎太郎**

〔講評〕　滝が夏の季語であることを生かした一句です。山にはいり、歩いて滝に出会います。歩いた分だけ、清冽感も大きいですね。